

III. 常陸鏡塚古墳編

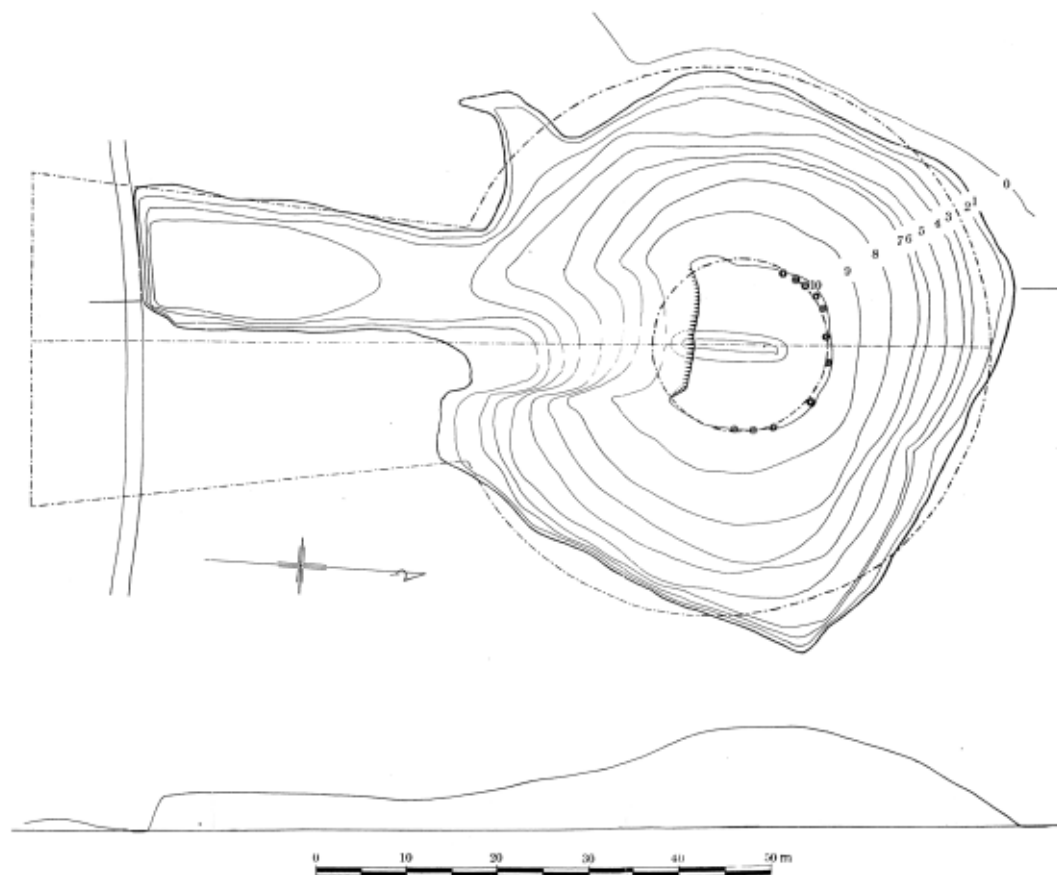
常陸鏡塚古墳編の概要

本編に収録した資料は、大場磐雄博士を団長とする磯浜町鏡塚古墳調査団が、昭和24(1949)年に発掘調査を行なった常陸鏡塚古墳関連のガラス乾板である。調査成果は、記念すべき『国学院大学考古学研究報告』の第一冊として刊行された(註1)。

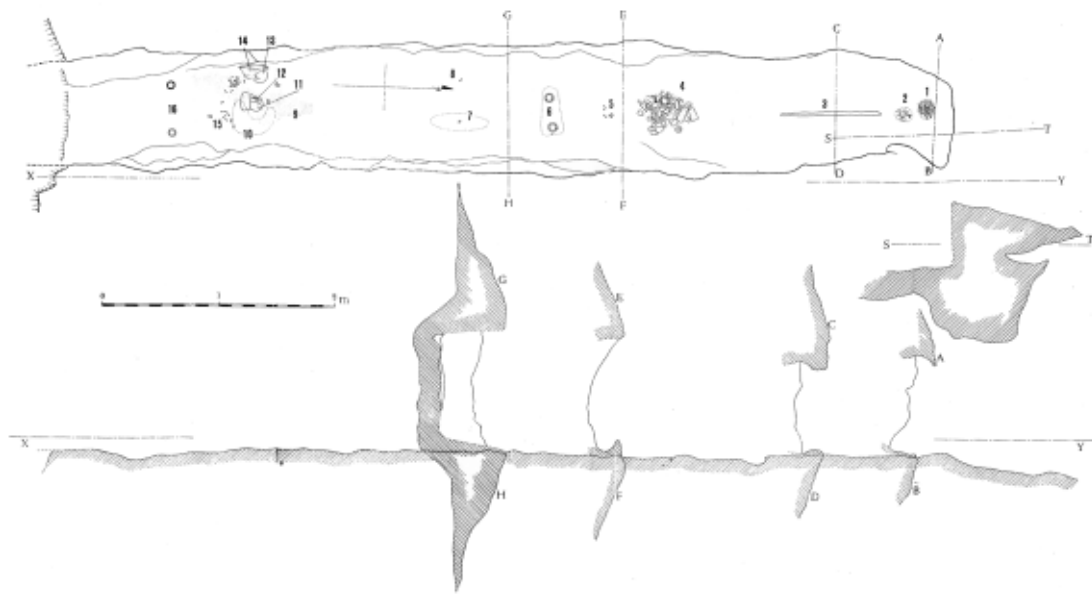
常陸鏡塚古墳は、茨城県東茨城郡大洗町磯浜(旧磯浜町大字日下字日ヶ塚)に所在する全長約96mの前方後円墳である。後円部墳頂の縁辺を圍繞する円筒形埴輪が出土しているが、葺石は確認されていない。埋葬施設としては、後円部の中央に存在する粘土槨が知られている。副葬品は内行花文鏡・変形四獣鏡・勾玉・管玉・ガラス小玉・石釧・石製模造品・立花状石製品・直刀・鉄斧・鎌・鉈などの鉄製品や埴輪などが出土しており、古墳時代前期末に位置付けることができる。

当資料には調査風景をはじめ、報告書所収の図版とは別カットの遺構写真・遺物写真が含まれているが、報告書に「第二図 埴輪断片」として掲載されている埴輪の写真については今のところ乾板が見当たらず、プリントされたもののみが大場磐雄博士資料(IV-13)に残されている。

なお、整理番号3365と3374、3373と4250、4258と4259、4260と4261は、それぞれパノラマ写真状に合成されたものが報告書の図版第五(槨内遺物出土状態)の下段、図版第五(槨内



第16図 常陸鏡塚古墳墳丘測量図(大場・佐野 1956)



第17図 常陸鏡塚古墳粘土礫 (大場・佐野 1956)

遺物出土状態)の上段、図版第四(粘土礫)の左、図版第一(鏡塚古墳遠景(上)及び近景(下))の下段に掲載されている。一般に、複数の写真を合成してパノラマ写真状にした場合、古い報告では合成した部分が明らかである場合が多い。しかし、今回整理を行なった写真資料を掲載した報告書では、その合成部分をぼかすことによって、より自然な形で図版を見せることに成功している。このような工夫は単に印刷技術のレベルに帰する問題かもしれないが、大場博士の意図によるものであった可能性も否定できない。

(深澤太郎)

註

1) 大場磐雄・佐野大和 1956 『常陸鏡塚』 国学院大学考古学研究報告 1



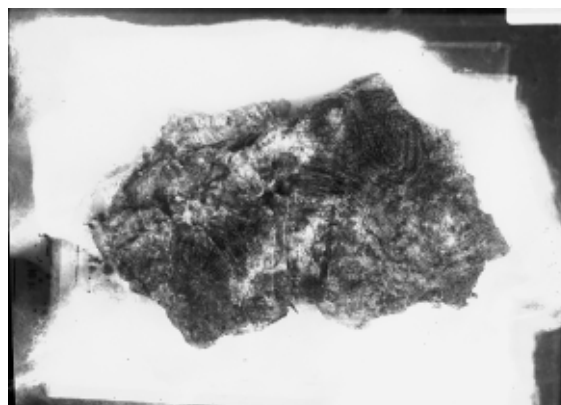
3364 槲内副葬品出土状態・第四区
昭和24年 8 月



3365 槲内副葬品出土状態・第四区
昭和24年 8 月
報告書図版第五・下 (3374と合成)



3366 後円部墳頂より前方部を望む
昭和24年 8 月
報告書図版第二・下



3367 出土櫛
昭和24年 8 月



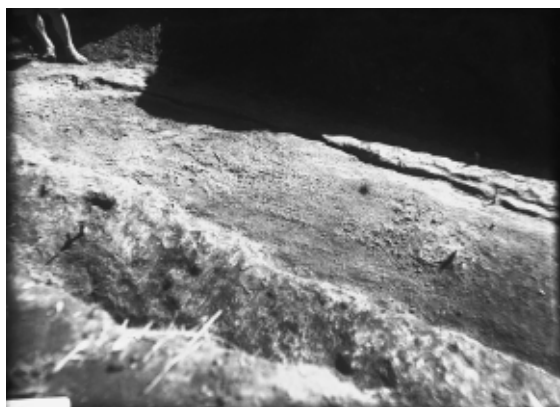
3368 櫛出土状況
昭和24年 8 月
報告書図版第一三・下



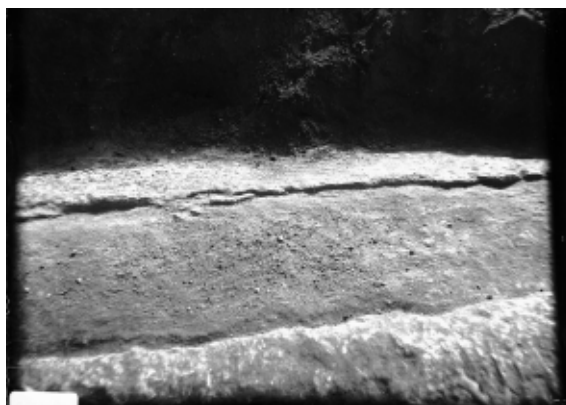
3369 遺物出土状況
昭和24年 8 月



3370 粘土槨・中央部状況
昭和24年 8 月
報告書図版第四・右 (3372と合成)



3371 粘土槨・中央部状況
昭和24年 8 月



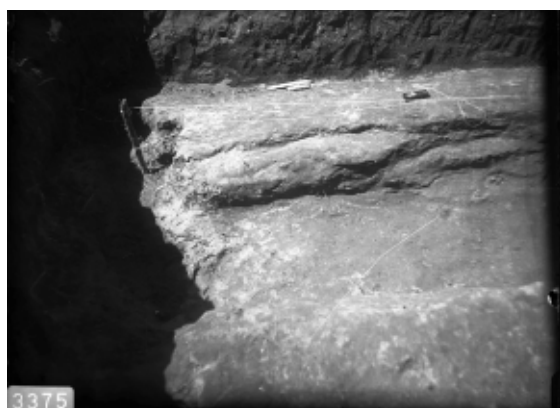
3372 粘土槨
昭和24年 8 月
報告書図版第四・右 (3370と合成)



3373 槨内副葬品出土状態・第二区
昭和24年 8 月
報告書図版第五・上 (4250と合成)



3374 遺物出土状況
昭和24年 8 月
報告書図版第五・下 (3365と合成)



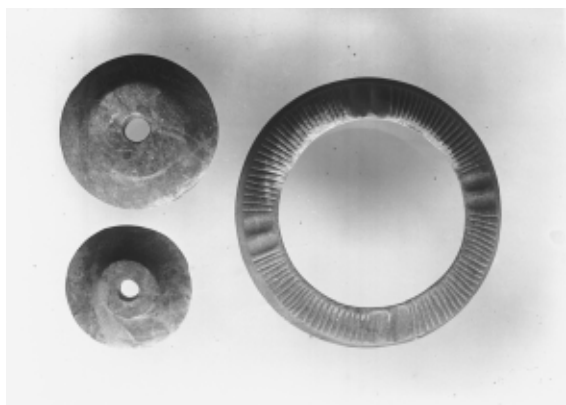
3375 粘土槨南端
昭和24年 8 月
報告書図版第三・下



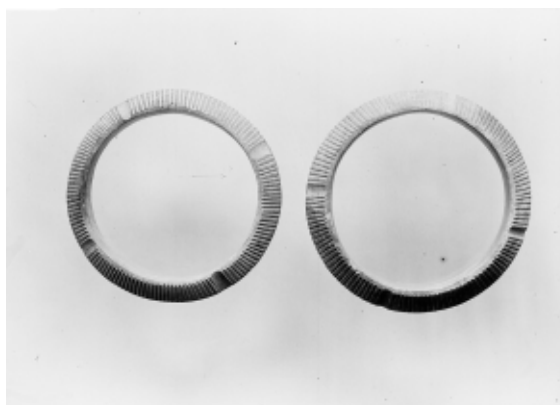
3376 西方磯浜町より遠望
昭和24年 8 月
報告書図版第一・上



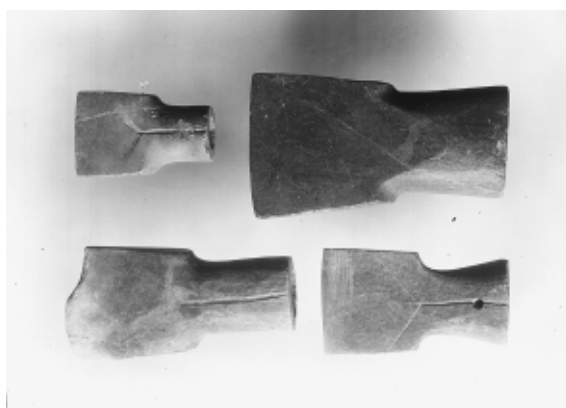
3377 前方部より後円部を望む
昭和24年 8 月
報告書図版第二・上



3378 滑石製石釧・滑石製紡錘車
昭和24年 8 月



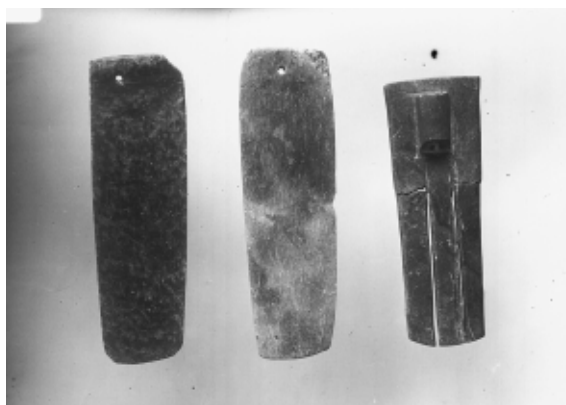
3379 滑石製石釧
昭和24年 8 月



3380 滑石製模造品（鉋）
昭和24年 8 月



3381 滑石製模造品（鑿）
昭和24年 8 月



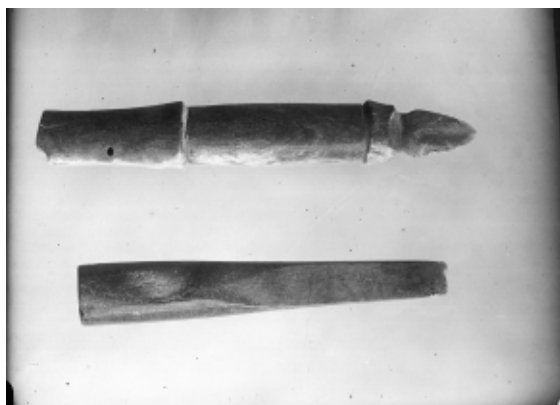
3382 滑石製模造品（鎌・鋤）
昭和24年 8 月
報告書図版第一三・上



3383 滑石製模造品（刀子）
昭和24年 8 月



3384 滑石製模造品（刀子）
昭和24年 8 月



3385 滑石製模造品（鉋・鑿）
昭和24年 8 月



3386 滑石製模造品（鉋・刀子）
昭和24年 8 月



3387 鉄製品
昭和24年 8 月



3388 鉄製品
昭和24年 8 月



3389 鉄製品
昭和24年 8 月



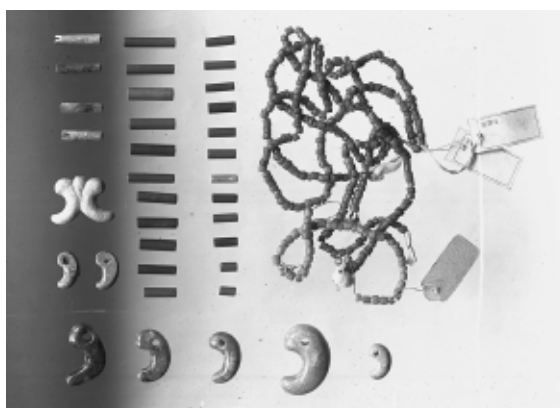
3390 鉄製品
昭和24年 8 月



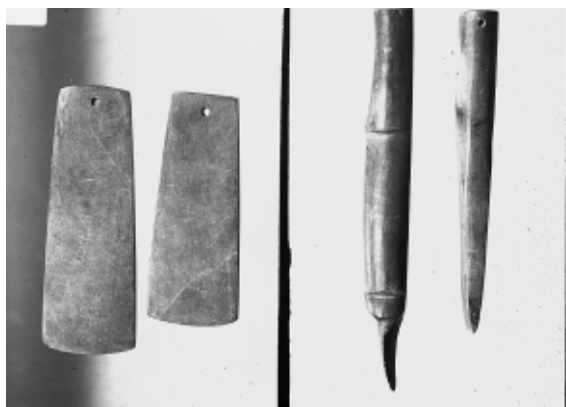
3565 滑石製模造品（斧）
昭和30年
報告書図版第一一



3566 滑石製模造品（刀子）
昭和30年
報告書図版第一〇



3567 滑石製模造品（異形品・管玉・勾玉）
昭和30年
報告書図版第八・上



3568 滑石製模造品（鉞・鏝・鏝）
昭和30年
報告書図版第九の一部



4250 槨内副葬品出土状態・第二区
昭和24年 8 月
報告書図版第五・上（3373と合成）



4251 粘土槨北端
昭和24年 8 月
報告書図版第三・上



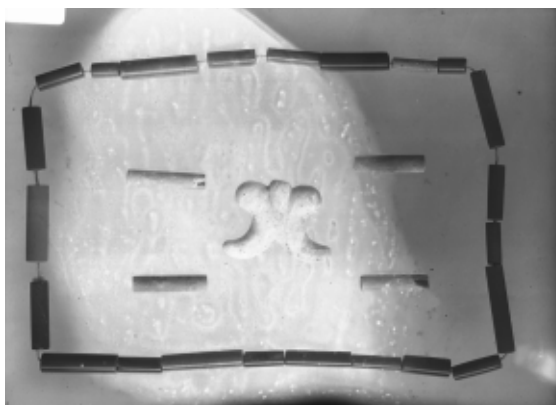
4252 変形四獣鏡
昭和24年 8 月



4253 内行花文鏡
昭和24年 8 月



4254 勾玉
昭和24年 8 月



4255 管玉・異形品（立花）
昭和24年 8 月



4256 白玉
昭和24年 8 月



4257 棺材残片
昭和24年 8 月



4258 粘土槨・中央部切断面状況
昭和24年 8 月
報告書図版第四・左（4259と合成）



4259 粘土槨・中央部切断面状況
昭和24年 8 月
報告書図版第四・左（4258と合成）



4260 鏡塚古墳近景・東方より望む
昭和24年 8 月
報告書図版第一・下（4261と合成）



4261 鏡塚古墳近景・東方より望む
昭和24年 8 月
報告書図版第一・下（4260と合成）